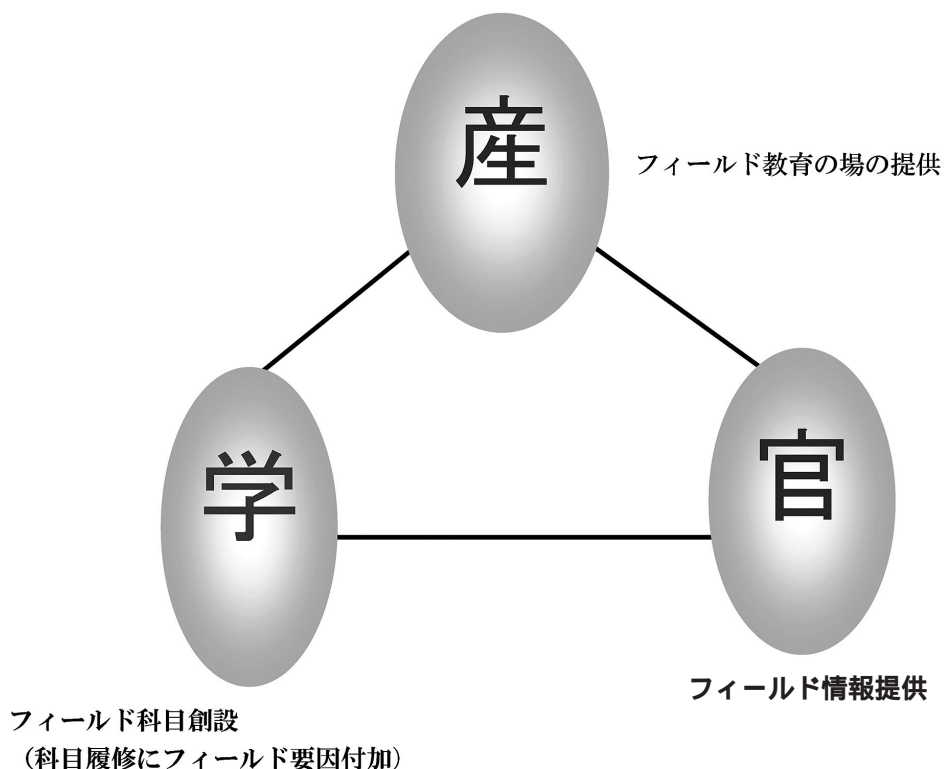






図 - 1 フィールド教育における産学官連携の考え方



第2に外部からの問題点指摘の機会が得られることである。それは改革への着眼点として、又はビジネスシーズの発見ということで、外部からの情報や指摘を吸収することによって、企業自身が問題点を発見するきっかけになるということである。

「官」のフィールド教育への期待については詳細な指摘はできないが、直接的には先に提唱した技術、地域、経営の三位一体関係において「地域政策および計画への提言」が期待されることである。

### 3. 管理学科におけるフィールド教育の実施状況

#### 1) 農村調査演習

「農村調査演習」は管理学科の宮本誠教授担当の3年生必修科目で、管理学科の学生のみが受講できる科目である。個別経営農家における経営状況の現地実態調査が科目の内容である。現地調査に入る前に「農村調査」という必修科目が課せられる。農村調査に必要な概念の習得及び庄原市の農業集落を調査対象に設定した聞き取り項目の検討が主要な講義内容である。具体的には、調査対象農家を選定して、事前の農業経営の実態を詳しく調べ、調査の技術的方法などを履修させて、8月上旬にゼミ別に農家経営調査を行う。その他、市役所及び「A」なども調査対象には含まれているが、経験の浅い学生が独自に調査を遂行することは困難であるため、ゼミ別に教員が調査対象農家まで引率する。対象農家は稲作、酪農、畜産、果樹、野菜、花卉、育苗など多岐に





